

## 評価委員会による平成 29 事業年度の業務実績に関する評価結果の反映状況

No.	指摘事項等	評価結果の反映状況																													
1	<p>第 1-1 PubMed に収録された論文数については、正規教員によるものが前年度と比較し減少している。また、インパクト・ファクター 3 以上の英語原著論文も全体の 3 割を下回っている。増加に向けた対策を講じられたい。</p>	<p>本学常勤教職員による PubMed 掲載論文は平成 30 年度 141 本(平成 29 年度 116 本)であった。また、インパクトファクター3 以上の英語原著論文は 57 本 (40%) であった。 <span style="float: right;">〈研究推進課〉</span></p> <p>臨床研究センターを活用した先進的な臨床研究を推進するとともに、同センター配置された英文エディターによる英語論文作成支援の一層の利用促進を図った。 ※英文エディターによる英語論文校閲実績 平成 30 年度 113 件 (平成 29 年度 87 件) <span style="float: right;">〈臨床研究センター〉</span></p>																													
2	<p>第 2-1-(2) 臨床研究センターを活用している講座が限られている。研究の裾野が大学全体に広がることを期待する。</p>	<p>臨床研究センターに研究相談窓口を設置して、様々な研究相談に応じる体制を整備するとともに、臨床研究セミナーや医学統計セミナーなどの各種セミナーの開催を通じて研究者等への教育を推進した。</p> <p>各種セミナー実施実績 (外部参加者含む)</p> <table border="1" data-bbox="824 730 1659 967"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">29 年度</th> <th colspan="2">30 年度</th> </tr> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研究セミナー</td> <td>7</td> <td>288</td> <td>8</td> <td>1099</td> </tr> <tr> <td>医学統計セミナー</td> <td>5</td> <td>87</td> <td>5</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>研究者向けセミナー</td> <td>6</td> <td>705</td> <td>6</td> <td>453</td> </tr> <tr> <td>倫理審査委員会委員等に対するセミナー</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈臨床研究センター〉</p>		29 年度		30 年度		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	臨床研究セミナー	7	288	8	1099	医学統計セミナー	5	87	5	126	研究者向けセミナー	6	705	6	453	倫理審査委員会委員等に対するセミナー			3	40
	29 年度			30 年度																											
	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数																											
臨床研究セミナー	7	288	8	1099																											
医学統計セミナー	5	87	5	126																											
研究者向けセミナー	6	705	6	453																											
倫理審査委員会委員等に対するセミナー			3	40																											
3	<p>第 2-1-(2) 保健看護学部の英語原著論文数は 1 件のみである。今後、英語教育の充実を図り、論文数の増加に向けた対策を医学部と同様に講じられたい。</p>	<p>FDカンファレンスにおける科研費の取得についての研修の際に、論文作成の方法、特に英語論文には臨床研究センターの英語論文作成の支援が受けられることを案内した。 <span style="float: right;">〈保健看護学部〉</span></p> <p>臨床研究センターに配置された英文エディターによる英語論文作成支援の利用促進を図った。 ※英文エディターによる英語論文校閲実績 平成 30 年度 113 件 (平成 29 年度 87 件) <span style="float: right;">〈臨床研究センター〉</span></p> <p>保健看護学部の英語原著論文の総数は 7 本 (平成 29 年度実績 1 本) と増加がみられ、うち、正規教員が筆頭著者となっているものが 2 本 (平成 29 年実績 1 本) となっている。 <span style="float: right;">〈研究推進課〉</span></p>																													

4	<p>第2-1-(2) 特許収入がない。知的財産の創出・取得・管理・活用を図るためには一定の戦略が求められる。他大学の取組を参考にするなど、研究成果を効果的に活用するための取組を強化されたい。</p>	<p>平成29年度から、民間事業者と成功報酬型業務委託を結び、メーカーへの打診を行うなど、重点的に技術移転活動に取り組んだ案件があったが、注力領域と異なるなどの理由から平成30年度に活動終了となった。</p> <p>平成30年9月に研究企画支援組織（URA組織）検討委員会を設置し、本学の研究推進体制の現状と課題等について検討を行い、薬学部開設を見据えた研究推進体制のあり方についてビジョンを策定した。今後も体制整備に向け検討を継続する。</p> <p style="text-align: right;">〈研究推進課〉</p>
5	<p>第2-1-(3) がん診療における機能分化及び地域連携を推進するための5大がん地域連携パスの運用実績が低調である。関連する全診療科の積極的な取組を期待したい。</p>	<p>5大がん地域連携クリティカルパスを活用した病診連携の促進を図るため、医師及び患者双方にとって利用しやすいパスへの改訂作業及び地域の医療機関への働きかけの実施等、対応の必要性について県がん診療連携協議会において提案し、現在方策について協議中である。</p> <p style="text-align: right;">〈経理課〉</p>
6	<p>第2-1-(3) 院内感染対策に関する体制は整備されているが、感染症専門医を配置するなどの充実が求められる。かつ、県内の医療機関に対して、感染対策の指導的役割を果たせるような整備を期待する。</p>	<p>感染症専門医の配置については、3年後の専門医認定試験申請に向けた準備を進めている。感染制御部の医師が暫定感染症指導医の認定を取得した。感染症診療に関する知識を持つ医師の育成を目指し、院内研修等を開催するとともに、感染症診療経験を持つ血液内科医師を感染制御部医師(兼任)として新たに配置した。</p> <p>現在呼吸器内科医師(専任)、血液内科医師(兼任)、救急集中治療部医師(兼任)の医師3名体制とし、感染制御体制の整備を図った。</p> <p style="text-align: right;">〈感染制御部〉</p>
7	<p>第2-1-(3) 患者満足度調査の結果を踏まえ、外来患者の待ち時間を縮減する具体的な対策を講じられたい。</p>	<p>平成30年5月に副院長を中心に外来患者の待ち時間にかかるタスクフォース会議を立ち上げ、①予約の入れ方の見直し、②かかりつけ医や地域の病院への積極的な逆紹介の推進、③血液検査がある場合の来院時間の周知の徹底について、平成30年8月に病院長に提言を行い各診療科あて通知を行った。10月に提言に対する取組みについて実態調査を行い、また、10月と1月に患者案内表示板の確認調査を実施し各診療科に調査結果を送付し番号を表示するよう通知した。</p> <p style="text-align: right;">〈医事課〉</p>
8	<p>第2-1-(4) 県民向けの最新の医療カンファレンスの参加人数が低調である。参加者が増えるよう、日時、場所、講演内容などを工夫されたい。</p>	<p>県広報誌「県民の友」掲載、有料広告「ニュース和歌山」掲載、学内掲示箇所の増設(病院棟掲示板)に加え、新たに外来医局と各保健所への広告チラシ設置等を行っている。また、アンケートに「どこで知りましたか？」と質問方法の工夫により参加人数を増やすためのデータ集計を行っている。講演テーマについても、一般市民に興味をもっていただけるようなわかりやすい表現にしている。</p> <p style="text-align: right;">〈総務課〉</p>

9	<p>第2-3-(1)          附属病院の入院部門の査定率については、カンファレンスに出向き査定内容について説明し、今後の取組等について情報共有を行うなどにより減少したものの、依然高いレベルにある。今後、より一層の取組が求められる。</p>	<p>医師等に対して保険診療講習会において、カルテ記載や査定事例について講習を実施した。          また、平成30年度に「査定率タスクフォース」を立ち上げ5つの提言を行い各科あて通知し査定率の縮減に取り組んだ。各診療科と診療報酬請求事務が連携し、レセプトの病名依頼時や返却時のチェックを強化。査定の多い事例については請求時に医師の症状詳記を添付。再審査請求については、内容を精査の上医師に理由書を依頼するなどの取組を行った。          査定率の状況については下記のとおり</p> <p>査定率の状況</p> <table border="1" data-bbox="864 448 1330 584"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>0.88%</td> <td>0.90%</td> <td>0.69%</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>1.05%</td> <td>0.80%</td> <td>0.74%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>1.00%</td> <td>0.83%</td> <td>0.72%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈医事課〉</p>		28年度	29年度	30年度	外来	0.88%	0.90%	0.69%	入院	1.05%	0.80%	0.74%	全体	1.00%	0.83%	0.72%
	28年度	29年度	30年度															
外来	0.88%	0.90%	0.69%															
入院	1.05%	0.80%	0.74%															
全体	1.00%	0.83%	0.72%															
10	<p>第2-3-(2)          診療材料費や委託費について、内容を精査し一層の縮減の努力をされることを求めたい。</p>	<p>医薬品については、年間値引き目標値を設定することにより購入経費の削減を図るとともに、全国の大学病院等の購入実績を参考に価格交渉を実施した。医療材料については、採用品目の切替・統一等の検討を行うことにより、価格の引き下げを図るとともに、医薬品と同様に他の病院の購入実績を参考にした価格交渉を実施し、購入経費の低減を図った。また医療用機器の保守やその他委託業務について、委託内容の見直しや入札の競争性を確保するための見直し等により、経費縮減を図った。</p> <p style="text-align: right;">〈経営企画課〉〈経理課〉</p>																